

めざせ食とエネルギーの地域自給！

「環境の世紀」の戦略について重栖代表が講演

今回は、重栖隆WeNET代表が昨年11月、和歌山県保険医協会（瓦野昌治理事長）の招きで行った記念講演の概要を紹介し、温暖化対策の重要ポイントを考えます。

この講演は昨年11月25日、サンピア和歌山で開催された和歌山県保険医協会第29回定期総会で、『食と環境＝環境の世紀と人の暮らしを考える』と題して行われた。

冒頭、重栖代表は、「21世紀がなぜ『環境の世紀』と呼ばれるのか？」と会場に問いかけたうえで、世界の環境学者を対象に「いまの状態では世界の人類はあと何年持つか？」を尋ねた2000年実施のあるアンケートをとりあげ、「こ



れは必ずしも人類の絶滅を想定した質問ではないが…」と断ったうえで、その回答が「平均43年、最短26年、最長でも76年」という衝撃的な結果であったことを紹介。環境問題の専門家の間では、現状で推移すれば現代文明が早晚破たんすることはもはや常識であり、「この深刻な環境危機の克服なしに人類にもう22世紀はないという危機感の表現が『環境の世紀』の意味だ」と説いた。

続いて、ではいかにしてこの危機を克服するか。地球温暖化問題の現状等について話したうえで、対策を提起。

まず省エネや再生可能エネルギーへの転換、二酸化炭素固定などによって今世紀中の気温上昇を2度未満に抑える

一方、ある程度の温暖化は不可避であることから、相当な環境変化を想定したうえでこれに備えた社会造りに今から取り組むこと、この二つの方向での対応が必要だと話した。

講演はここから、この二つの方向の各論へ。

そのすべてを本紙上で再現することは不可能だが、例えば家庭でできる温暖化対策については、取り組みレベルに、細かな気配りで電気などのエネルギーを節約するSAVE（抑制）、省エネ家電製品やハイブリッド車に買い換えるSELECT（選択）、ソーラー発電や太陽熱温水器の導入など自然エネルギーに転換するSHIFT（代替）の3Sで表現される三段階あると解説。

もとよりSAVEだけでは温室効果ガスの削減にも限界があり、これらを組み合わせて各家庭や地域社会がエネルギーの自給をめざさねばならないが、まず初歩的なSAVEに取り組まなければSELECTやSHIFTなど、より多くのコストがかかる対策にチャレンジする環境意識は生まれず、であればこそ、ここに環境市民運動がいま省エネの啓発に力を入れる意義もあると強調した。

また、環境変化に備えた社会造りでは、環境の世紀を乗り越える社会のキーワードは「食料とエネルギーの地域自給」であり、それゆえ「農」ないしは農林水産業がこうした新しい社会のベースになると説明。

最後に、こうして21世紀にあるべき社会の構図を鮮明にしたうえでこれをゴールに定め、そこから逆算（バックキャスト）して今なすべきことを明らかにし、現代を共有する人々の協働を組織していこうと訴えて、1時間40分の講演を結んだ。

WeNET活動リポート

◆ 推進員関西合同研修会に参加して ◆

昨年11月17日に滋賀県で開催された「第4回地球温暖化防止活動推進員関西合同研修会」に前岡秀幸・土井浩・松下靖彦の3推進員が参加しました。関西周辺9県から多くの推進員が参加し、9人による発表が行われました。わが県の発表は和歌山駅・田辺市で行われた6回の街頭啓発キャンペーンの報告でしたが、「イベント開催でスタッフが何度も集まり、多くのCO2を排出するのがいやだった」と言った時に会場の多くの女性がうなずいたことが印象的でした。また他県の発表では「グリーンカーテン（ゴーヤをプランターで育てて、その葉っぱを屋根まで伸ばして日除け代わりにする）」が記憶に残りました。分科会では「街頭啓発は活動の原点」と評価？されたことがよかったです。尚、この研修会は関西の財界・各県で結成した「関西広域連携協議会」が主催するもので、環境問題がテーマの組織ではありません



発表する松下推進員

でした。各県の推進員同士の交流は必要なことですが、「どうも推進員たちが利用された？」集まりのような気がしました。

報告 第2期推進員・松下靖彦

◆ 発電自転車の愛称決定！ ◆ その名も「和っ人くん（ワットくん）」！

2月4日に開催された「わかやま環境フォーラム2007」にて来場者からのシール投票の結果、WeNET制作の発電自転車の愛称は「和っ人くん（わっとくん）」に決定しました。名付け親は第2期推進員・友沢正幸さん。和歌山県出身と電気



量の単位（ワット）と人の「和」を連想させ、さらに語呂もよく、堂々の19票獲得となりました。

以下、投票結果は「チャーリー・エコ」16票、「EBICO（エビコ）」11票、「輪電号」8票、「チャーリー電作」・「紀の国エコチャーリー」5票、「いーさいくる」4票、「発電自転車・ハッ君」・「エコチャリ・ハックン」・「発電自転車・エコチャリ君」・「汗だらピカリ号」がともに3票、「ウルトラカブ」・「エコチャリ・のってって号」2票、そして「ホリサダ号」・「エコチャリ・オレンジ号」が1票でした。

愛称考案くださった皆様、来場者の皆様、有難うございました。イベントには必ず顔を出す「和っ人くん」を今後とも可愛がってやって下さい！！

◆ 県内マイバッグ普及率調査～中間報告～◆

推進員活動の一環として事務局とも連携の上で進めて参りました和歌山県内におけるマイバッグ普及率調査は、12月～1月で紀北地方と和歌山市合わせて12店を終了、計1,634人のデータが集まりました。やはりマツゲンやオークワのようにポイント制がある店ではある程度の普及があり（約5～10パーセント）、県内唯一のレジ袋有料店（強制ではないが1枚5円）であるわかやま市民生協岩出店では71,4%という素晴らしい結果が出ました。会員の環境意識の高さが伺えます。また紀の川市粉河では21,9%（ポイント制のある店にて調査）と高かったのは「昔は商人の町」だったからでしょうか？和歌山市・海南市のように透明レジ袋をゴミ袋



コープ岩出中央店にて

として使用できる地域では普及率は今ひとつでした。

が、よく考えてみるとゴミ袋購入という新たなゴミを発生させないシステムにも一理あるとも言え、今後の検討課題となるでしょう。

なお、午前中の方がマイバッグ持参率の高いことも判明、調査のあり方に課題を残しました。

今後は紀中・紀南でも調査を始める予定で、県内平均が判明した上でマイバッグ普及に新たなアクションを起こす事となりそうです。

クローズアップ！ わたしたちの活動

このコーナーはわかやま環境ネットワークに参加する団体や企業、個人の活動記録と今後の展望を紹介します。

紀ノ川農業協同組合の紹介

■「農村と都市の関係の豊かさを創造する 紀ノ川農協」をめざします

紀ノ川農業協同組合は、和歌山県の全域を組合の地区とし、約900名の組合員でつくる、農産物の販売と組合員の生産資材の購入を行う販売専門農協です。

■「ほんまもんの農産物」をめざしています

私たちは、化学農薬・肥料をできるだけ減らし、地域の資源を活用した循環のある、自然環境と共生できる農業をめざしています。

人の健康によい農業、地域の環境にやさしい農業、地域の食料自給率を高める農業、地域の経済や文化、そして人を発達させる農業からつくりだされる「ほんまもんの農産物」をめざしています。

■たまねぎの交流園

地元の生協組合員さんと「たまねぎの交流園」を取り組んできました。10年前にはじまった当初は、農薬を使わない、有機肥料だけ



で栽培しました。

今は、特別栽培農産物の認証を受けての取り組みです。苗

の定植と収穫作業を一緒に取り組みます。

■有機JASへの取り組み

キウイは、農薬を使用しない栽培で取り組んできました。



現在、圃場環境の条件が有機栽培として十分な生産者19名が取り組んでいます。

■ふうの丘・直売所

日曜市を10年前から取り組んでいましたが、大阪や近隣から来られた方がゆっくり田舎の自然や農業にふれていただきた



いと、2001年に開設しました。年間10万人以上の方に利用していただいています。

■地元スーパー等でのインショップ

地産地消の取り組みを発展させたいと、地元スーパーで、生

産者が直接持ち込むインショップを9店舗で行っています。また地元生協のお店の中でも

インショップが始まりました。



■果物狩りなどの交流

いちご狩りやとうもろこし狩り、みかん狩り、ピオーネ狩り、ブルーベリー狩りなどの収穫体験の交流を行っています。年間、約4500の方が訪れています。



《紀ノ川農業協同組合 連絡先》

〒649-6602 紀の川市平野 927

Tel : 0736-75-5036 Fax : 0736-75-5410

<http://www.kinokawa.or.jp>

『省エネの達人』

NPO環境を考える会リベラル
代表の川口美智子さんに省エネ
の一例を教えてください。



「いりません！」と断る勇氣

今年は暖冬で梅の開花も早く、また雪不足でアルプスのスキー場が大打撃を受けている等とのニュースも報じられ、世界中で温暖化による異常気象が続発しています。この地球温暖化に対して、みんなでどんな事でも小さな努力を重ねることで地球を変えていくしかないのです。

さて、容器包装リサイクル法が改正され、4月からレジ袋や食品トレーを減らす取り組みが強化されます。やっと私たちのマイナック活動が実ったという気持ちです。たかがレジ袋と思いますが、1人年間300枚、石油換算で56万キロリットル消費されていると聞けば驚く方もおられるでしょう。

私は、10年前からマイバック・携帯箸・魔法瓶(0,20)を(自称、三種の神器)を持ち歩いています。マイバックは、

袋底にチャックがつき二段階式で、購入量によって調整出来るように工夫しています。そして、小さく折りたたみ、バッグの隅に入れいつでも買い物が出来るようにして外出します。



プレゼントには、ふろしきという日本

の伝統的なラッピングも利用しています。また、百貨店・商店での過激な箱や包装にはその時は丁寧で嬉しいと思うのですが、家へ戻るとその装材の後始末にうんざりする経験をお持ちの方も多と思います。

タイミングよく、「いりません！」の一言をいう勇氣がいかに大事かという事です。以前、変な顔をする店員さんも、最近では商品が裸のため、万引きと間違えられないようにとの配慮

から、品物に店名のテープを張って下さいます。私もレシートは必ず貰うようにしています。

売る側と買う側の双方に、原則として「レジ袋は使用しない」「過剰包装はしない」という共通意識がないと減らせないと思います。ゴミ削減・資源の無駄遣いをなくすためにも、容り方は食品だけだが、食品以外の商品にも、レジ袋(ビニール袋)を減らしていくように、みんなで取り組みましょう。

◆ 事務局だより ◆

～脱温暖化センターひろしま主催の『地球温暖化対策地域協議会に関する地域セミナー』に参加してきました～

広島県の推進員養成講座は「2人1組」の受講と聞き、「ホーッ」と感心しました。推進員になると、地域の協議会(広島ではT-地域、E-エコ、A-アクション、M-ミーティング、=TEAMという)に参加するか、未だできていない地域ならTEAMをつくるのが義務付けられている様です。現在、センターとの関わりのある地域協議会が12あり、「脱温暖化」の様々な活動をしています(脱温暖化センターひろしまのHP参照)。

このセミナーでは基調講演2本とともに、「ひろしま地域協議会ア・ラ・カルト」として県内10の地域協議会が出展するポスターセッションや、協議会の作り方・メニュー・経営を考える分科会、そして「ミニ企画研修」と題してセンターが推進員養成時に実施している「曼荼羅シート」を使った企画づくりなど、大変参考になるものでした。

とくに企画づくり研修の「曼荼羅シート」は、「環境学習指導者ハンドブック」(広島県HP参照)が生かされており、自分のなかにある「知恵」をひきだし、企画を具体化するうえでなかなか面白いツールです。

ともあれ、和歌山においても自分たちの周りにある「資源」(自然や文化など)や地域の特性をしっかりと生かし、推進員の方々を中心に地域の住民・自治体・事業者とともに、環境を守る活動の企画づくり・活動を前進させねばと、決意しながら帰途につきました。事務局 目

NPOわかやま環境ネットワーク通信「ういねっと」

第6号(平成18年2月20日発行)

発行: NPOわかやま環境ネットワーク

代表理事 重栖 隆 事務局 前岡正男

事務局: 〒641-0051 和歌山市西高松1-6-4 栗栖ビル2F

TEL 073-432-0234 FAX 073-421-6545

e-mail wenet@vaw.ne.jp

HP-URL http://www.vaw.ne.jp/wenet/

～活動に参加して下さる会員を募集しています～

『年会費』運営会員(個人・NPO・学校)	3000円
(事業者・公共団体)	一口10000円
会 員(個人・NPO・学校)	3000円
(事業者・公共団体)	一口10000円

※詳しくは事務局までお問い合わせください。

事務局地図

